

小規模校の教職員配置による子どもへの具体的な影響例

1. 安全上の問題

①事故・怪我等の対応

- ・複数の児童生徒の事故や怪我等に対応できる教員等の人数に限られる。  
(担任外が少ない)

2. 子どもへのサポートの問題

①付き添い指導

- ・個別にサポートする教員数が足りない。  
(支援学級在籍児童生徒や配慮が必要な児童生徒の授業、水泳授業等)

②教員不在時の対応

- ・教員が研修等で不在の時に、自習監督者の確保が難しい。
- ・特に小学校においては担任外が少ないため、対応及び学校運営に支障をきたす。

3. 教育活動への影響

①教員の指導力

- ・同じ学年(小学校)や同じ教科(中学校)の教員が少ないため、指導方法等について相談したり、教員相互の連携や切磋琢磨の機会が少ない。

②クラブ活動

- ・中学校のクラブ活動において顧問となる教員が不足し、また、部員も少ないことから、クラブ数が少なくなる。

4. 教員の多忙化による子どもへの影響

①教員の校務分掌の負担増

- ・小規模校は、一人の教員が複数の校務分掌を掛け持ちすることが多くなるため、それぞれの業務に時間を要し、子どもに接する時間や教材研究等を行う時間が制約される。